

# 委託事業実施内容報告書

## 平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

### 【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 会津喜多方国際交流協会

#### 1 事業の趣旨・目的

地域の日本語教室は日本語学校とは異なり多様な学習者が在籍している。彼らの様々な目的、レベルに対応できるよう教授法を基礎から学ぶだけでなく、地域の日本語教室でのコミュニケーションの方法などを学ぶことで、今後のボランティア活動に自信を持って臨めるようにする。

#### 2 運営委員会の開催について

##### 【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
5月17日	レオクラブ ガーデンス クエア 神明通り店 会議室	齋藤直美 戸塚裕子 高橋明子 昆野典子	○研修の目的について ○講座内容、講師について ○周知方法について ○チラシ内容について	○研修の目的について ・全員で確認 ○講座内容、講師について ・決定事項について報告、検討 ○周知方法について ・市広報、会議所広報に掲載、近隣国際交流協会等にチラシ配布
10月3日	会津喜多方 商工会議所 役員室	齋藤直美 戸塚裕子 高橋明子 昆野典子	○これまでの講座について振返り ○これからの講座内容の検討、確認	○講座について振返り ・アンケート結果報告 ○これからの講座内容検討、確認 ・学習者のニーズを把握し講師と相談
2月21日	(株)リオン ドールコー ポレーション	齋藤直美 戸塚裕子 高橋明子 昆野典子	○実施成果について ○これからの講座について	○実施成果について ・アンケート結果報告 ○問題や課題について ・受講生の質問に対す

	会議室			るフィードバック ・ 終了証作成 ・ 最終日のアンケート について ・ 研修後の人材活用 について
--	-----	--	--	--

【写真】



### 3 講座の内容について

- (1) 講座名 地域で生活する外国人への効果的な日本語の教え方
- (2) 目標  
地域で生活する外国人への効果的な日本語の教え方を学ぶ。地域の日本語教室に必要な知識を深め、実践し、ボランティアのスキルアップを図る。
- (3) 受講者の総数 25 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)  
(出身・国籍別内訳 日本・25人 )
- (4) 開催時間数(回数) 30 時間 ( 7 回)  
講義 20 時間 ( 5 回) 実習 10 時間 ( 2 回)
- (5) 参加対象者の要件  
ボランティア活動経験が2年以上ある方
- (6) 受講者の募集方法  
喜多方市広報  
会津喜多方商工会議所会報  
当協会作成のチラシ配布  
近隣国際交流協会への周知
- (7) 会場  
ア 講義 会津喜多方商工会議所 大ホール  
イ 実習 会津喜多方商工会議所 大ホール

(8) 使用した教材・リソース

『みんなの日本語初級1、2』『大地1、2』『大地 指導書』『おしゃべりのたね』  
『いっぽにほんごさんぽ』、『みんなの日本語中級I本冊』  
『会話に挑戦！中級前期からの日本語ロールプレイ』、講師自作のプリント

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
7月24日 10:00～ 15:00	初級者への教授法① (講義) 「授業のバリエーション」	(財)宮城県国際交流協会 日本語講座スーパーバイザー 鈴木 英子	18名
8月28日 10:00～ 15:00	初級者への教授法② (講義) 「楽しい教室活動をするために」	(財)宮城県国際交流協会 日本語講座スーパーバイザー 鈴木 英子	14名
9月25日 9:30～ 15:30	初級者への教授法③ (実践) 「授業力を磨こう」	(財)宮城県国際交流協会 日本語講座スーパーバイザー 鈴木 英子	13名
11月27日 10:00～ 15:00	中級者への教授法 (講義) 「気付き」	福島大学 非常勤講師 永島 恭子	16名
1月29日 10:00～ 15:00	在日外国人のメンタルヘルスについて (講義)	大正大学 人間学部 人間環境学科 専任講師 鶴川 晃	15名
2月19日 10:00～ 15:00	中級後半から上級学習者への教授法 (講座) 「こうじゃなきゃいけないに縛られないために」	福島大学 非常勤講師 永島 恭子	9名
3月11日 9:30～ 15:30	中級後半から上級学習者への教授法 (実践) 「自分を晒すことに慣れる」	福島大学 非常勤講師 永島 恭子	10名

## (10) 講座の評価

### ① 受講生に対するアンケート ※一部抜粋

#### ○第1回目

- ・色々な教科書があること、また、その実際の活用法が分かりとても参考になった。
- ・日本語を教えるためには工夫が必要だということを実感した。
- ・ボランティア、学習者双方が楽しく意欲的に学べるよう授業を工夫していることが分かりました。

#### ○第2回目

- ・「支援者」「共育」「役に立つ教室」「学ぶ楽しさ」いい言葉でした。
- ・自分の発話時間がどれだけ多いのだろうと考えてみただけでも恐ろしい。
- ・パズルなど、学習者が興味を持ちそうな話題や教材選び、作成などを心がけていきたいと思います。参考になる教材を見せていただき良かったです。
- ・先生の授業をビデオで見る事は、とても分かり易くて良かった。

#### ○第3回目

- ・教材準備の大切さを改めて実感しました。
- ・人の授業を聞く機会がほとんどないので、貴重な機会でした。
- ・自分の課題を見つけられたので、今後の活動に活かしていきたいです。

#### ○第4回目

- ・学習者のニーズを明確につかめるようになりたい。
- ・カリキュラムデザインについて順序立てて説明していただき、具体的なカリキュラムをつくるまでの過程がとても参考になりました。
- ・シラバスを使用するスケジュールの立て方をグループで話し合えたことが良かった。
- ・具体的な指導例や実践が見たかったです。

#### ○第5回目

- ・外国人の精神的な（体の病気も含め）自分は個人的な関わりはもたないと思って活動していましたが、お話を聞いて、日本語教室として外国人とのメンタルヘルスに関わることの必要性を理解することができた。
- ・家族へのバトンタッチへの大切さや介護と同じように考えること。
- ・生徒さんとの距離や、講師の在り方にお悩みの方が多数いらっしゃったことを知ることができて良かったです。

#### ○第6回目

- ・実践に即した講義内容で、ボランティアとして大変助かりました。
- ・地域性、自然会話等勉強になりました。
- ・生徒さんの実情に合わせて教案をきちんと作る大切さが理解できました。

○第7回目

- ・他の方の授業はとても勉強になりました。行う事、見る事、どちらも勉強になります。
- ・講師の先生からもっと指導してほしい。
- ・みんなで模擬授業をし、感想と課題を発表したことが良かった。

○講座全体について（16名回答）

Q1：講座全体の内容について

- |              |    |
|--------------|----|
| (1)とても良かった   | 5名 |
| (2)まあまあ良かった  | 9名 |
| (3)どちらでもない   | 1名 |
| (4)あまり良くなかった | 1名 |
| (5)良くなかった    | 0名 |

Q2：講座内容を実践した、または今後実践する予定はありますか

- |                     |     |
|---------------------|-----|
| (1)実践した、又は実践する予定である | 16名 |
| (2)実践しない            | 0名  |

Q3：Q2で「実践した、又は実践する予定である」と回答された方。具体的にどのような事を実践しましたか。また、実践する予定ですか

- ・会話練習をテキストに縛られないクラスづくり。
- ・自然会話を心がけようと思います。
- ・実習で出てきた課題を、実際の授業で活用したいと思う。
- ・学習者の心理について興味があるので、学習者のメンタルの状況や確認、対応の仕方において実践していきたいと思う。
- ・教える側の発話量が多くならないよう心がける。
- ・有効に活動するために準備しておく便利な物の一覧表はうなずける事が多く、実践に役立てたい。
- ・自分の課題に気付くことができました。教材を多く、楽しい授業を心がけ授業に取り入れたいと思います。

Q4：講座の回数について（全7回）

- |               |     |
|---------------|-----|
| (1)適当であった     | 11名 |
| (2)もっと多いほうがいい | 1名  |
| (3)もっと少ない方がいい | 4名  |

Q5：講座時間について〈講義：10:00～15:00〉〈模擬授業：9:30～15:30〉

- |                 |     |
|-----------------|-----|
| (1) 適当であった      | 12名 |
| (2) もっと多いほうがいい  | 0名  |
| (3) もっと少ないほうがいい | 2名  |
| (4) その他         | 2名  |

- ・継続的な講座ではなく単発的な講座だと参加しやすいと思いました。
- ・集中して講座を受講するには4時間は長いような気もしますが、講座内容によっては、この位必要なのかと思いました。

Q6：一番印象に残った講座はどれですか ※複数回答有

- |         |    |
|---------|----|
| (1) 1回目 | 3名 |
| (2) 2回目 | 6名 |
| (3) 3回目 | 5名 |
| (4) 4回目 | 4名 |
| (5) 5回目 | 5名 |
| (6) 6回目 | 2名 |
| (7) 7回目 | 3名 |

## ② 実施主体からの研修内容結果評価

学習者の様々なレベルや目的に合わせられるよう、また、自信を持って授業に臨めるようにという目的のもと開催した今講座は、講座終了後のアンケート「講座全体の内容について」という問いに対し、「とても良かった」「まあまあ良かった」という回答が大半を占めたことから、目的は概ね達成できたと評価できる。また、「講座内容を実践した、または今後実践する予定はありますか」という問いに対し、回答者全員が「実践した、またすでに実践する予定である」という回答からも、今講座の効果があつたことが伺える。そして、今回初めて行った模擬授業では、講師や受講生同士の授業を見学することで、授業のアイデアやヒントを得るだけでなく、課題を提起し話し合い、受講生同士で共有することにより、今後の活動の改善や自信へとつなげることができた。

## ③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

学習者のニーズ調査、分析、そして対話を中心とした学習を行うなど、学習の選択肢を増やすことで、より充実した教室活動を行っていきたい。  
また、在住外国人からの生活相談などを受けた場合、適切な機関や家族とのパイプ役となるよう心がけていく。

## (11) 事業の成果

### ① 他事業との連携

行政や県内、近隣国際交流協会との情報の交換, 収集を行い、研修など積極的に参加していく。

### ② 研修後の人材活用

これからの日本語教室の核となってもらえるよう、新しいボランティアの養成や、今回の講座で得た知識を広める活動に携わっていただく。

## (12) 今後の課題

授業の中で生じる、様々な悩みや課題は、ボランティア個人では解決できないことが多々ある。それらを、放置しないよう、ボランティアで話し合い、解決へと導けるような機会を設ける必要がある。そして、今回学んだ知識をボランティアで共有、伝達し、より充実した教室活動を行えるような体制作りを構築していかなければならない。